

水害想定・コロナ対策評価

防災教育常総2校特別賞

大花羽小と水海道中

防災教育に取り組む地域や学校を顕彰する本年度の「1・17防災未来賞 ぼっさい甲子園」で、常総市の小中学校2校が特別賞を受賞した。選ばれたのは大花羽小(同市大輪町、内田篤校長)と水海道中(同市小山戸町、青木昇校長)。同市では2015年の常総水害を契機に小中学校での防災教育に力を入れており、両校独自の取り組みが評価された。



「ぼっさい賞」の常総市立大花羽小(同市大輪町)



「しなやかwithコロナ賞」の常総市立水海道中=同市小山戸町

阪神・淡路大震災を経て全国的に防災教育が重視されるようになったことから、優れた活動に取り組む子どもや学生を顕彰しようと始まった。兵庫県などが主催し、今回は全国から123校の応募があった。

大花羽小は、地域の被災経験と教訓から生まれた活動に対する「ぼっさい賞」を受賞した。同小では「命の大切さ」をテーマに、校内の設備を確認する「学校防災探検」や、水害を想定したドライブスルー方式の児童引き渡し訓練といった取り組みを行う。親子でマイ・タイムラインを作る講座では国土交通省下館河川事務所と連携した。同小6年の大塚凌さん(12)は「防災の授業を通じて災害時に素早く行動する大切さを学んだ」と語った。

水海道中は、新型コロナウイルス感染症対策や防災活動での感染症対策など、迅速で柔軟な取り組みに対する「しなやかwithコロナ賞」を受賞した。

同中では手や指の消毒や換気、マスクの着用などを訴えるため「香水」「うっせえわ」などの流行歌を基に替え歌を作り、職員や生徒が歌う動画も作り、昇降口の大型テレビで放映して啓発に努めている。このほか、避難所運営ゲームなどの防災教育も実施する。同中3年の中村日葵さん(15)は「替え歌の取り組みでコロナへの意識が高まった」と話した。(秋葉凌)

方、安全が心配とする声 質問。「なぜ男子は黒

ボト 刃を 数人 下石 組 計約 した。 本勉 と、 訪れ 弘高 (稀 月31 然に 郵